（別紙4）　　令和　3　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2970800344		
法人名	社会福祉法人　三寿福祉会		
事業所名	グループホーム友楽苑		
所在地	奈良県御所市重阪771-3		
自己評価作成日	令和3年12月20日	評価結果市町村受理日	令和5年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人カロア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4丁目4番33号
訪問調査日	令和4年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

緑豊かな自然の中に立地しており、施設内も木のぬくもりを感じられる設えとなっている。ゆったりとした時間の中でその人らしく生活が営まれるよう支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

御所市内からは少し離れた地域にあり、自然環境にも恵まれた立地となっています。周辺の法人内の介護保険施設などと研修や委員会、職員育成などの面で連携しながら、グループホームの役目である地域密着我型サービスの運営に取り組んでいます。

訪問調査を実施した月末で、2ユニットの内の1ユニットを閉鎖することが、諸般の事情などから行政との協議で決定している状況であり、翌月より1ユニットでの運営となるとのことで、移行期間にあって自己評価を含め評価が難しい面があるも、隣接する同法人の事業所などとも連携や協力を継続しながら、利用者の安心した暮らしなどの支援に引き続き取り組んでいかれています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見える場所に掲げ、スタッフは実践に繋げるよう心掛けている。	前回の外部評価以降、目標達成計画にも掲げて、スタッフ間で理念をより共有した運営に取り組んでいます。日頃のケアに活かしながら、引き続き理念の実現に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1度は自治会等の方々と顔を合わせる機会があるが、限定された職員であり事業所との交流とは言えない。	周辺集落から少し離れた立地となっており、またコロナ禍での日常的な交流は難しい状況にある中、氏神様への定期的なお参りや自治会との連絡・連携は心掛けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催時に施設での取り組みや、研修会の内容等を説明している。新型コロナウイルス発生後は、感染予防対策の観点から開催出来ない時は、資料・アンケート用紙を送付している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、現状の報告、地域での取り組みや意見交換を行っている。新型コロナウイルス発生後は、感染予防対策の観点から開催出来ない時は、資料・アンケート用紙を送付している。	コロナの状況に合わせて、集まれない場合については、事業所の情報や利用者の様子をまとめた資料を参加者に送付して、返送された意見用紙の内容を、職員会議にかけ記録に残しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の担当者や生活保護の担当者等と随時連絡を取り、入居者支援のサービス向上に努めている。	住所地の御所市はもちろん、立地的にも近い隣の五條市などとも、日頃から連絡・連携を図り情報交換・共有に努めています。またコロナ対策などでも行政と必要に応じた連絡を取りあっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し、3ヶ月に1回委員会を開催し事例検討やその他身体拘束に関わる話し合いをする機会を持っている。また指針の整備・スタッフに周知活動、年2回以上の研修開催を行っている。	法人全体や隣接のグループホームとも共同で委員会活動や研修に取り組んでいます。研修の振返り記録からも、身体拘束など禁止行為などの理解が図られていることが把握できます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待予防に関する委員会を設置しており話し合いの機会を持っている。研修会で知識を深めながら、日頃からスタッフ同士での注意喚起に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や生活保護法など、入居者に関わる諸法令は、理解が深まってきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前説明においてご家族、ご本人の不安をうかがい、安心していただける為に必要な説明を行っている。改定時には改定内容を説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご意見を頂いている。新型コロナウイルス発生後は、感染予防対策の観点から開催出来ていない。ご家族には手紙や電話で現状の報告をしている。	意見箱だけでなく、直接把握した要望などに対して、内容を整理した上で必要に応じて職員会議に掛けて対応を検討し、回答するなどの過程も記録に残した上で、運営にも反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、GH会議を開催し話し合いの機会を設けている。また、年に2回個人面談を実施し、意見を聞く機会を設けている。	人事考課制度も合わせて、年に2回実施している管理者との面談で個別の意見を把握するだけでなく、日頃から話しやすい関係性が構築されていることが、職員の様子や話しからも把握できます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課、個人面談を実施し、得手不得手な部分を理解した上で助言、指導を行っている。定期的にキャリアパス研修を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、施設内研修会、定期的にキャリアパス研修を開催し、スタッフのレベルアップに努めている。また、個々のレベルにあった外部研修に参加する機会も設けていたが、コロナ禍で減少している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所のイベントに参加したり、当施設のイベントに招いたり、他法人と合同の勉強会を開催し法人間交流に努めていたが、新型コロナウイルス発生後は、感染予防対策の観点から開催出来ていない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前アセスメントの段階でご本人やご家族の思いや不安を聞き、入居時の環境整備やサービス内容に配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族への面接でご家族の思い、施設利用に対する不安などを聞き、出来る限りの納得を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で最適なサービス利用を提案できるよう心がけている。必要であれば他事業所との連絡調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時に介護者であり、時に家族であるという立ち位置となり、気を遣われないよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは定期的にお手紙や電話という形で現状の報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族より希望があった際には、なるべくその希望が叶えられるよう感染症予防に配慮しながら支援している。	コロナ禍では以前のような関係の継続は難しい状況ですが、タブレットでの面会、外部受診時などの家族との対面など、できる限りの支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必ずしも利用者全員が全員と良好な関係を構築している訳ではないが、利用者間の関係に応じて座席を配置したり、時にはスタッフが間に入り円滑な関係構築に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の施設へ移られた方に対し面会したり、ご家族とお会いしたときには現状をうかがったりしている。また、長期入院で退所となった方に対し現状の確認や退院後の相談などをするように努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にケース会議を行い、ご本人の意向や生活の現状を把握している。	利用者の様子や状態の変化などの時に限らず、こまめな電話連絡を心掛ける他、衣類の交換やリモート面会、外部受診の際などの機会に、家族などの希望や意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	人を知ることは歴史を知ることという信念を持ち入所前のアセスメントを行っている。可能であればご自宅のお部屋など、生活されている場所を実際に確認するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から色々な場面で状態を観察し、会議等で情報を職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議等において現在の課題を抽出し、ご家族等の意見などを聞き、ケアプランに反映させている。	計画作成担当者が中心となり、アセスメント・モニタリングなどの流れに沿った記録も整理出来ています。計画の内容も介護職員が理解しやすいようにファイリング゛し、適切なケアの実施に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別の日中、夜間の介護経過を記録し職員間での共有、支援内容の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対し、できないと決めつけることなく、対応が可能かどうかを検討する様にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出の機会を設け、買い物や季節を感じる場所への訪問をしていたが、感染予防対策の観点から必要最小限となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の相談にて主治医の選定をしていただいている。また、必要に応じて受診の送迎、付き添いを行っている。	事業所への往診医だけでなく、必要性や家族の希望なども踏まえて外部受診の支援を行っています。送迎や付き添いも家族と連絡・協力しながら実施しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調、様子に異変が見受けられた際、迅速に併設施設の看護師に随時相談、助言、診にきてもらい医療面でのサポートをして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際には治療方針を聞き入院期間などを確認し早期退院に向けMSWと連携し円滑な受け入れに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	GHのケアの限界を十分に説明しご理解いただいた上でご家族、ご本人のご意向を最大限実践できるよう関係機関との連携に努めている。	事業所への往診医や訪問看護事業所、家族などとも連携・協力して、家族・利用者の意向に沿ったターミナルケアの実践実績もあります。今後も状況に合わせて、重度化や終末期ケアに取り組んでいく方針です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡先などを事務所内に掲示し迅速な対応に努めている。施設内にAEDを配置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災、水害、地震などを想定した非常災害訓練を実施している。各施設にトランシーバーを配置し、緊急時の連絡方法を確保している。法人で防災委員会を設置している。法人として市と福祉避難所の協定を結んでいる。	定例の火災訓練の実施だけでなく、ユニット内に各種ハザードマップを掲示して、日頃から各種災害に対する備えや意識の向上に努めています。3日分の食料など備蓄品の管理・点検も実施しています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時に介護者であり時に家族であるという考えを持ち、利用者とスタッフとの人間関係にあった言葉がけをしている。	浴室やトイレなども、ケア提供時に周りの視線などが気にならない配置・設備となっています。言葉がけも丁寧で優しい関わり方でのケア提供となっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からご本人の希望が選択できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中でも生活習慣を崩す事のないよう、個々の時間を大切にしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の趣向を尊重し施設内で散髪をしている。外出の機会は少ないが、更衣の際、意思疎通の困難な方であってもその人らしい服装を着てもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、利用者の趣向を取り入れたおやつ作りや食事作りを行っている。また、日頃から一緒に食事、片づけを行っている。	隣接の特養厨房から運ばれる副食類を、必要に応じて温めなおすなど適時適温に配慮した上で盛り付け、ユニットキッチンで調理した主食と汁物と合わせて、見た目や季節の食材にも配慮して提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を確認し、体重測定で増減を把握している。定期的に主治医と現状を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師、歯科衛生士指導のもと、入居者の口腔内清潔保持、スタッフの口腔ケア技術の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをすることで排泄リズムの把握に努め、トイレ誘導を行っている。	日々の排泄に関する個別ケアの内容や排泄状況が細かく記録されています。その記録を元に職員間で共有を図った、適切な排尿や排便のケアに取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにより排便の間隔を把握している。水分摂取や医師から処方された下剤を活用、マッサージを行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間入浴はできていないが、出来る限り可能な時間、方法で入浴していただいている。	週に2回の入浴ケアを基準としながら、できる限り利用者等の希望に沿った入浴ケアの実施に努めています。体調や心理面に配慮して実施しない場合も、翌日や時間を空けての実施、代替ケアを実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や身体状況に応じてご家族等にご協力を頂きながら支援している。定期的に寝具の交換をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋、服薬内容を個人ファイルに綴り、作用、用法を確認している。服薬内容が変更になった際はその経過を主治医やご家族へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の「できること」を活かせるよう生活に取り入れている。嗜好品についても可能な限り対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じることの出来る場所への訪問や買い物、外食を実施していた。コロナ禍において趣向にともなう外出は皆無となっている。	以前のような外出行事や日常的な買い物などは、コロナ禍では十分に実施できていないが、今後の状況に合わせて実施していく方針です。敷地内での事業所周辺での外気浴などには、気候に合わせて実施しています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族了承のもと現金を所持していただいているが、基本的に小遣い金は施設管理をしている。必要なときに使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば施設の電話を使用していただいている。利用者の能力、ご家族との相談のうえ携帯電話の持ち込みも制限していない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって安心できる空間となるよう整備している。季節を感じられる装飾品を掲示している。	外部からの日差しも豊かで、明るい空間となっています。食卓以外にもソファなどを配置して、居心地の良く過ごせるようにも配慮されています。季節ごとの飾りつけなども施されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事で使用する椅子、机のほかにソファを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や装飾品、電化製品などを持ち込んでもらい、居心地、生活のしやすさに配慮している。	使い慣れた家具などを各自で持ち込んで、個別的で過ごしやすい居室環境となっています。仏壇・テレビ・家族の写真なども確認できます。家族が入れない現状でも、担当職員が整理整頓を実施しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などわかりにくい場所が目に付くように看板や張り紙をしている。利用者の重度化に伴い新たに手すりの設置を検討している。		